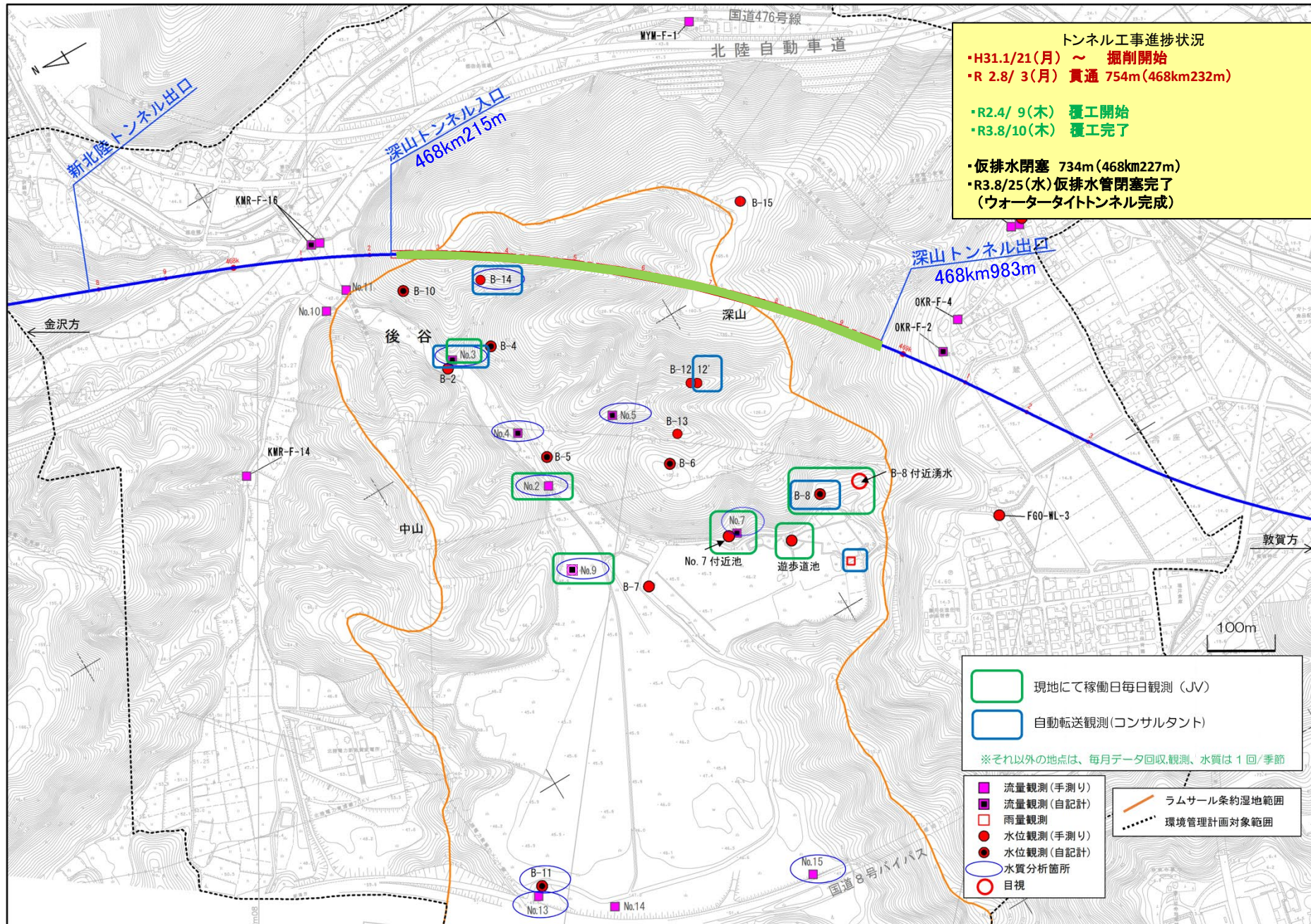


深山トンネル水文調査モニタリング報告書

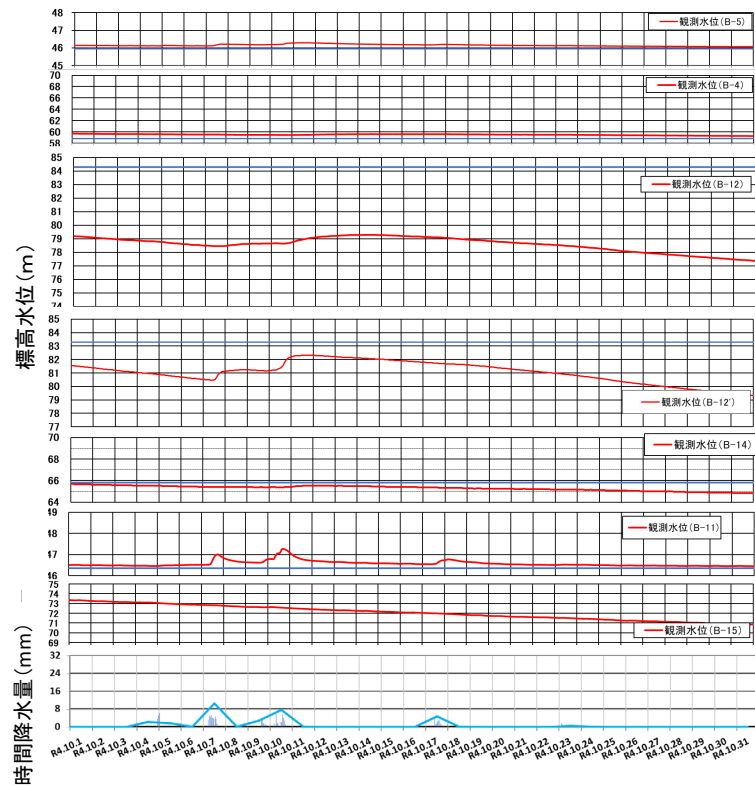
調査期間：令和4年10月1日（土）～令和4年10月31日（月）

「北陸新幹線、中池見湿地付近深山トンネル等工事に係る環境管理計画」に基づき実施している水文環境モニタリング結果について報告する。



水文環境モニタリング観測地点図

※主要箇所のみ抜粋 地下水位観測結果図(自記記録)



B-5 地下水位
過年度最低水位
46.0m

B-4 地下水位
過年度最低水位
58.8m

B-12 地下水位
過年度最低水位
84.3m

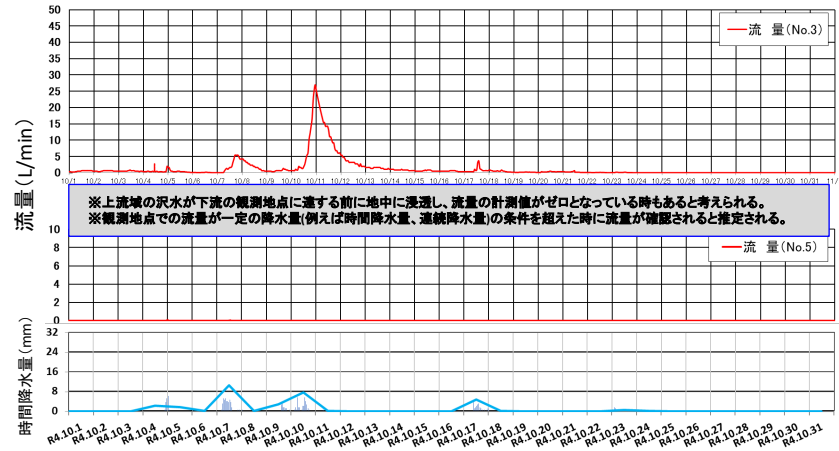
B-12' 地下水位
過年度最低水位
83.3m

B-14 地下水位
過年度最低水位
65.8m

B-11 地下水位
過年度最低水位
46.36m

B-15 地下水位

流量観測結果図(自記記録)



No. 3 流量

No. 5 流量

降水量

全体総括

■目立った変動なし □やや変動あり
□変動あり(注意体制への移行を検討)

期間中の地下水位低下量

■1m未満ないし増加: 下記以外すべて

■2m: B-12 ■5m未満: B-12'

期間中の流量低下量

■50ℓ/分未満ないし増加: すべて □50ℓ/分以上

期間中のpH変動量

■0.5未満: B-8, B-12 □0.5以上 □1以上

日降水量

□15mm未満 ■15mm以上(3日) □50mm以上

月降水量

□80mm未満 ■80mm以上 □130mm以上 □200mm以上

概 要

■水位変動について

①目立った変動なし。

②B-4(自記水位計): 期間中の降水に明瞭な反応を示さない。水位は期間を通して、緩やかな低下傾向を示す。期間を通して過年度最低水位を上回る状態が継続する。

③B-5(自記水位計): 降水にわずかな反応を示す。水位は期間を通して緩やかな上昇傾向を示す。期間を通して過年度最低水位をわずかに上回る状態が継続する。

④B-12'(自動転送): 期間中の降水にわずかな反応を示す。水位は10/7の降雨で上昇傾向を示す。以降は期間末にかけて低下傾向を示す。過年度最低水位を下回っている状態が続く。今後も注視していく。

⑤B-14(自動転送): 期間中の降水に明瞭な反応を示さない。水位は期間を通して緩やかな低下傾向を示す。期間中は過年度最低水位を下回る状態が継続する。今後も注視していく。

⑥B-15(自記水位計): 期間中の降水に明瞭な反応を示さない。水位は期間を通して緩やかな低下傾向を示す。

⑦No.3(自動転送): 期間中の降雨に反応を示し、一時的に流量が上昇する。期間の大半は、微量な流量となる。

⑧No.5(自記): No.5(自記): 期間中は0L/minの状態が続く。

⇒少雨や大雨の数日後の状況として、当該上流域の沢水が下流の観測地点に達する前に地中に浸透することにより流量の計測値がゼロとなっている状況がある。

⇒観測地点での流量が一定の降水量(例えば時間降水量、連続降水量)の条件を超えた時に流量が確認されると推定される。

■降水量について

①10月の日最大降水量: 10/7の40.0mmである。

⇒9月の日最大降水量: 9/20の36.5mmである。

②10月の降水量: 119.0mmである。

昨年10月は85.0mm、平年値(敦賀アメダス)は152.6mm

⇒9月の降水量: 129.0mmである。

昨年9月は132.0mm、平年値(敦賀アメダス)は204.9mm